

人間栄養学科公開講座における少人数グループ学習の試み

A Practical Lesson in Small Group Learning during Open School Human Nutrition Classes

(2011年3月31日受理)

田村 理恵 Rie Tamura	木野山真紀 Maki Kinoyama	真鍋 芳江 Yoshie Manabe	槇尾 幸子 Sachiko Makio
村上 淳 Jun Murakami	西田 典数 Norikazu Nishida	川上 祐子 Yuko Kawakami	高 早苗 Sanae Ko

Key words : 少人数グループ教育(チュートリアル), 栄養セミナー, 公開講座, 実践的授業, 管理栄養士養成課程

抄 録

本学現代生活学部人間栄養学科3年次生は、栄養セミナーⅢ(チュートリアル)の授業の一環として、地域の幅広い年齢層の人々を対象に健康・栄養・食生活について楽しく学び日常生活に役立つ学習の機会を提供することを目的とした公開講座を企画実施している。この授業の成果と問題点を検証するために、参加学生に対し実施に向けての準備期間中や講座当日の取り組みなどについて全20項目のアンケートを実施した。その結果、「当日の積極的関与」、「メンバーとのコミュニケーション」など18項目についての評価は良好であり、この授業形態が一定の成果を収めていることが確認できた。一方「2年生とのコミュニケーション」と「時間」に関する項目では、低い評価の学生が多数存在した。このことから、学年が異なる学生や会場を訪れた地域の方など、日ごろ接していない人とのコミュニケーション力が不十分であることと時間を計画的に配分し有効に使うための知識・技術が不足していることが明らかとなった。

はじめに

平成14年に施行された改定栄養士法は、管理栄養士の職務を献立・食品・栄養成分といった「モノ」を対象とすることから、食生活や健康を維持、改善するための栄養ケアを支援するという「人」を中心とした内容へと改定した¹⁾。これを受けて管理栄養士養成カリキュラムには「チーム医療の重要性を理解し、他職種や患者とのコミュニケーションを円滑に進める能力を養うこと」とあり、コミュニケーション能力の向上が、教育上重要なテーマとして位置付けられた²⁾。一方、文部科学省中央教育審議会の「わが国の高等教育の将来像」の答申(平成17年1月)³⁾にもコミュニケーション能力向上の必要性について触れられており、他大学でもコミュニケーション能力を向上させるような授業等の取り組みについての報告が散見される^{4), 5)}。また、文部科学省中央教育審議

会の答申は、「地域への貢献」を大学の使命の柱の一つに位置づけ、各大学に「地域に開かれ、地域に貢献する大学」を目指すことを求めている³⁾。本学現代生活学部人間栄養学科(以下本学科という)では、このような社会情勢と学生のコミュニケーション能力等の実情を踏まえ、学科の特色ある科目として、1年次から4年次まで一貫した少人数グループ教育(チュートリアル、科目名は栄養セミナー)を実施している。このうち、3年次に通年で開講する栄養セミナーⅢは、一人のチューター(担当教員)と7,8人の学生がグループを構成し、きわめて実践的な学習形態の授業を展開している。具体的には、地域の幅広い年齢層の人々を対象とした健康・栄養・食生活教育を各グループ単位で企画、準備し、その成果を公開講座として地域に公開している⁶⁾。本報告は、この特色ある試みの、教育上の効果や問題点を明らかにし、今後の教育に資することを目的として、学生の授業評価

及び担当教員の反省や感想を分析したものである。

栄養セミナーⅢの概要⁶⁾

1. 栄養セミナーとは

中国学園大学は、平成14年4月に管理栄養士養成課程の1学部1学科で開学した。開学時には、基礎学力の向上と教員との信頼関係の構築などを目的として1年次前期に栄養セミナー（必修）を開講した⁷⁾。新入生を迎え、授業を進める中で、学生の基礎学力（国語力、計算力など）、マナーや常識、コミュニケーション力などが不足していることに教員が危機感を強め、度重なる議論の結果、1年次後期以降も継続してチュートリアルが必要との結論に達した。これを実現するために、平成15年度から17年度の間に当初4年次の卒業研究に割り当てていた必修6単位を、各学年の栄養セミナーに配分して、1年次から4年次まで一貫した少人数グループ教育を実施するに至った。各学年の栄養セミナーの方針と概要は、平成17年度にはほぼ確立し、現在に至っている。

2. 栄養セミナーⅢの概要

(1) 授業形態とチューターの役割

栄養セミナーⅢは、3年次開講の通年1単位必修の演習科目である。管理栄養士を中心とした8人の教員が、

ランダムに割り当てられた7,8人の学生を受けもち授業を運営する。チューターは、授業を主導するのではなく、学生が主体的に考え行動することを支援するという立場をとる。

各セミナーは、地域の幅広い年齢層の人々を対象として健康・栄養・食生活に関し、楽しく学べ、日常生活に役立つ学習の機会を提供することを目的として10月に実施する「中国学園大学公開講座」で学習成果を発表することを前提に、テーマ設定を行い、発表に向けて活動する。毎週水曜日の3限を授業時間としているが、空き時間を利用して調査、媒体等の制作、料理の試作などをセミナー単位で自主的に行う。この授業の目標は、自主的な学習態度、目的達成に向けた実践的能力、コミュニケーション能力、社会人としての礼儀、作法を身につけること及び、新しい知識・技術の習得である。

(2) 公開講座

「中国学園大学公開講座」は、本学子ども学部と共に毎年10月の大学祭期間中（2日間）に開催している。平成21年度の各セミナーのテーマを表1に示す。学内の教室を会場として、セミナー毎にコーナーを設け、常駐する学生が来場者の体験、試食、見学などによる学習を支援する。本学科の公開講座の企画・構成・運営は、各セミナー代表学生による企画・実施委員会があたる。

表1. 中国学園大学公開講座のテーマ

人間栄養学科公開講座のテーマ USN (ユニバーサルスタジオ庭瀬) ～おいでよ！食べものと元気のまちへ～	
各セミナーのテーマ	内 容
Patisserie MAKIO	大学の菜園で育った野菜を使い、旬の味・香り・栄養を重視した野菜のスイーツを作成しカフェ形式でおもてなした。
岡山レストラン ～おばあちゃんの味を学ぼう～	岡山の郷土料理を知っていただき、郷土料理の良さを再確認していただく。また、実際に3品作り、試食を提供した。
Dr. 西田の健康チェック	血管年齢や体脂肪率、血圧を実際に測定し、身体の状態と生活習慣病について知っていただいた。健康お菓子（黒糖蒸しパン）も作成し提供した。
村上印の吉備団子	昔から伝わる岡山のお菓子である吉備団子を、きびを石臼でひくところから行い、3種類の味の吉備団子を試食し、評価していただいた。
食べてみる!?カル☆とるアイス！ 測ってみる骨密度！	骨密度を測定し、さらにカルシウムの摂取について勉強していただけるようなコーナーや、カルシウムを多く含むアイスクリームを試食していただいた。
フルーツの食卓 ～WFS(ワールド フルーツ セミナー)	世界にあるさまざまなフルーツを紹介し、実際に食べていただいたり、ジャムにしたものを食べ比べ、評価していただいた。
世界のお菓子 It's a sweet world ! ～ようこそ世界のお菓子へ～	お菓子を通じて世界の様々な国の気候や風土・文化に触れる目的で、イタリアやアフガニスタン、台湾の特徴的なお菓子を作り、試食していただいた。
我ら岡山食べ隊んじゃー！	J A岡山のご協力により、野菜についての劇を行ったり、野菜を使った料理を紹介するなど、岡山のおいしい食べ物を知って、地産地消について学んでいただいた。

3. 2年次生の参加

2年次生は、栄養セミナーⅡの全30回の授業回数中6月以降に4回、3年次生の栄養セミナーⅢに合流し、3年生に協力して、発表準備に取り組む。公開講座当日は、スタッフとして実施運営に加わり、この体験を翌年に生かす。

方 法

学生による栄養セミナーⅢの授業評価を次の方法で実施した。この集計結果、自由記述及び担当教員による反省会での意見を分析データとした。

1. 学生による授業評価

栄養セミナーⅢ担当者が作成した、自記入留め置き法によるアンケートを平成22年1月に実施した。質問項目は20項目で、いずれも5段階で評価しマークシートに回答したものを集計した。評価の尺度と質問項目を表2に示す。マークシートには自由記述欄を設け、感想や意見を書かせた。有効回答の回収率は86.8%であった。

2. 分析方法

(1) 授業評価アンケートの質問項目の分類と評価の尺度

結果の分析に当たって、表3に示すように質問項目を「学習意欲・関心」、「学習態度」、「チューターの役割」、「コ

表2. アンケート用紙

尺度	評価項目		
	1	非常に良くない	非常に不満
2	あまり良くない	不満	
3	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない
4	良い	満足	
5	非常に良い	非常に満足	その通り

質問番号	質問項目
1	3年次栄養セミナーの前に、このセミナーへの期待感がありましたか
2	この授業（3年次栄養セミナー）の目的について理解できていましたか
3	この授業に対する教員の説明は十分でしたか
4	2年生のときに3年生の栄養セミナーに参加したことは有益でしたか
5	担当するセミナーの内容に、興味や関心がもてましたか
6	セミナー発表（公開講座）に向けた準備は、積極的に取り組みましたか
7	セミナー発表までの準備期間は適切でしたか
8	発表当日（10/17,18）の活動時間は適切でしたか
9	セミナー発表当日は積極的に行動できましたか
10	チューターの指導助言は適切でしたか
11	チューターとはコミュニケーションがとれましたか
12	セミナーメンバーとは協力できましたか
13	参加した2年生とはコミュニケーションがとれましたか
14	企画運営のために設けられた委員会は有益でしたか
15	あなたが属した委員会の活動は活発でしたか
16	所属した委員会で、あなたは役割を果たせましたか
17	セミナー発表（公開講座）後、グループで活動内容を整理しましたか
18	あなたは、このセミナーを通して、新しい技術や考え方が身についたと思いますか
19	あなたの学習態度は、よかったですと思いますか
20	あなたの3年次栄養セミナーに対する満足度を示して下さい

コミュニケーション」, 「時間」, 「委員会」, 「満足度」の7群に分類した。なお, 以後の質問項目の表記には, 表3に示す「省略」を用いた。評価結果は, 評価尺度5と4の割合の合計を「高い評価」とし, 評価尺度2と1の割合の合計を「低い評価」とした。質問3(教員の説明), 4(2年次での参加)及び13(2年生とのコミュニケーション)については, 「高い評価」群と「低い評価」群についてt検定を用いて有意差の検定を行い, 危険率5%未満を有意差有りとした。

表3. アンケート項目

分類	質問番号	省略
学習意欲・関心	1	期待感
	2	目的理解
	5	興味関心
学習態度	4	2年次での参加
	6	準備への積極的関与
	9	当日の積極的関与
	17	活動内容の整理
	18	新しい技術、考え方
チューター役割	19	学習態度
	3	教員の説明
	10	指導助言
コミュニケーション	11	チューターとのコミュニケーション
	12	メンバーとのコミュニケーション
	13	2年生とのコミュニケーション
時間	7	準備期間の長さ
	8	当日の活動時間
委員会	14	委員会
	15	委員会の活発さ
	16	委員会への関与
満足度	20	満足度

(2) 自由記述の集計

マークシートの自由記述欄に書かれていた自由記述の内容は, 「メンバーとの協力」, 「2年生との関わり」, 「来場者との関わり」, 「時間, 場所」, 「感想」, 「その他」に分類し, 同様の記述をひとつにまとめ, 出現頻度をカッコ内の数字で示した。

結果及び考察

1. 全体の概要

授業評価アンケートの評価項目別の評価尺度の割合を

図1に, 自由記述を表4に示す。評価尺度の割合で全体を概観すると, 質問7(準備期間の長さ), 13(2年生とのコミュニケーション), 15(委員会の活発さ)を除いた各項目で「高い評価」が60%を超えており, 全体的に学生の評価が高い授業であった。中でも5(興味関心), 6(準備への積極的関与), 9(当日の積極的関与), 11(チューターとのコミュニケーション), 12(メンバーとのコミュニケーション), 18(新しい技術, 考え方), 19(学習態度), 20(満足度)は「高い評価」が80%を超え, きわめて良好な評価結果であった。自由記述においても, メンバーとの協力, 積極的な取り組み, 楽しく学習できたなどの記述が複数あった。「栄養セミナーⅢの概要」でも述べたように, この授業の目標に, 協力して目的を達成する, コミュニケーション能力の向上, 新しい知識・技術の習得, 自主的な学習態度を身につけるなどを挙げているが, 今回の結果は, 多くの学生がこれらの目標を理解し, 積極的に学習に取り組んだことを示している。また, チューターの学習支援についてもおおむね満足していたことが伺える。

一方, 「高い評価」が50%を下回ったのは, 7(準備期間の長さ)と13(2年生とのコミュニケーション)であった。この2項目は, 「低い評価」の割合が7は37%, 13は20%と他の項目に比べ高かった。準備期間については, 自由記述にも時間が足りないとの記述が複数あり, 学生にとって大きな問題であったことが伺える。コミュニケーションについては, 上述したように, メンバーやチューターとのコミュニケーションは良好であるのに, 初対面の異なるカテゴリーに属する人(今回の場合, 学年が異なる2年次生)とのコミュニケーションは苦手とする学生が存在することが明らかとなった。

2. 質問群別の評価

質問項目別の評定平均値と標準偏差及び質問3(教員の説明), 4(2年次での参加), 13(2年生とのコミュニケーション)の「高い評価」群と「低い評価」群の評定平均値と標準偏差の比較を表5に示す。

(1) 「学習意欲・関心」群

質問1(期待感), 2(目的理解)については, 60%以上の学生が「高い評価」であり, 「低い評価」はいずれも10%未満であった。このように学習開始前から期待

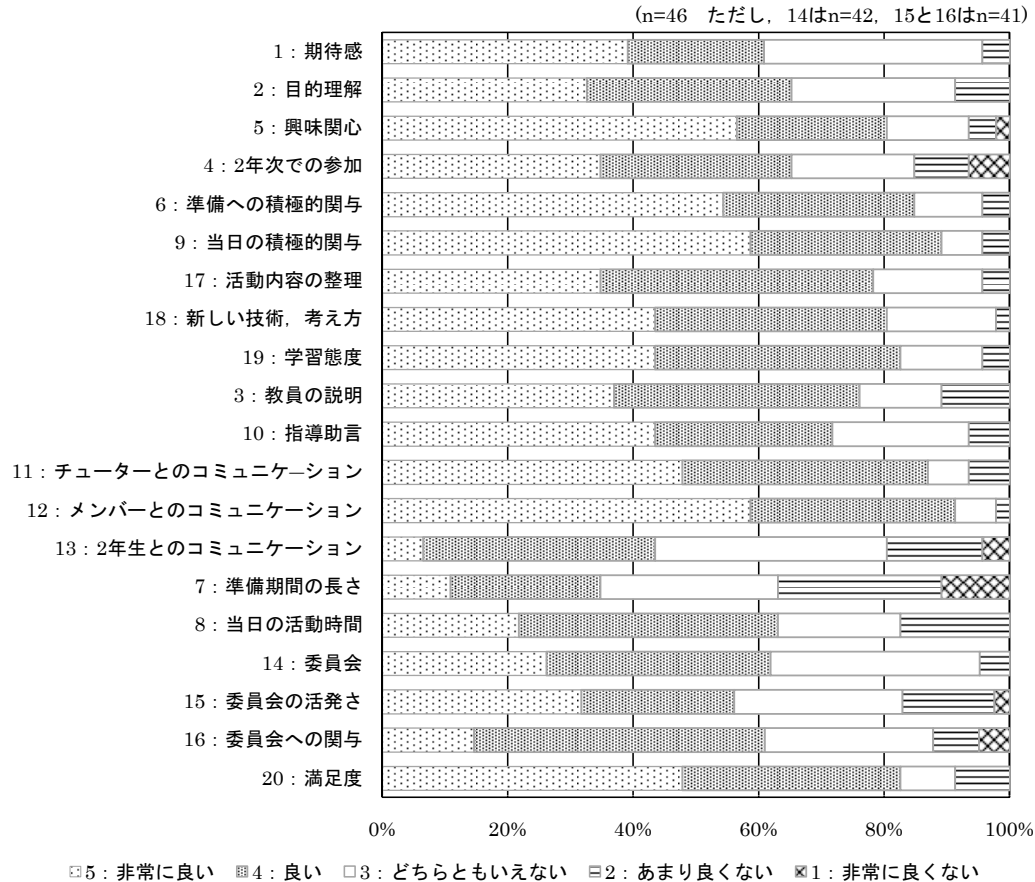


図1. 質問項目別評価尺度の割合

表4. 自由記述と出現頻度*

<p>「メンバーとの協力」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セミナーのメンバー、教員と協力して頑張ることができた・積極的に取り組めた・達成感もあり、充実していた。(13) ・チームワークはあまりなかった・もう少しクラス全体で盛り上げることができたらよかったと思う。(2)
<p>「2年生との関わり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年生と交流できてよかった。(2) ・次回栄養セミナーへの期待(1) ・2年生にもっとちゃんと指示しておけばよかった。(1) ・2年生との交流が足りない気がする。(3)
<p>「来場者との関わり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セミナーで外部の人と接したことはすごくいい体験になった。(4) ・お客さんとのコミュニケーションをもっととればよかった。(1)
<p>「時間・場所」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備期間、セミナーの発表当日の準備の時間が足りない。(9) ・もう少し早い時期から取り組めればもっと展示も良いものが出来たと思う。(1) ・時間の配分があまりよくなかった。(2) ・当日は忙しかったので他のセミナーをまわることができなかった。(2) ・場所が狭い。(2)
<p>「感想」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とても楽しく勉強できた・充実していた・貴重な経験ができた(学外での取り組みなど)。(9) ・野菜が嫌いと言う人が「すごくおいしい」といってケーキを食べてくれたのでうれしかった。(1) ・自分の準備不足が反省・改善すべき点(1) ・来場者へ説明をするためにもう少し準備しておけばよかった。(1)
<p>「その他」 (6)</p>

※出現頻度(): 類似表現をまとめた。

感を持って臨め、目的もほぼ理解できていた要因として、短期間ではあるが2年次に公開講座の準備及び実施に関わった経験が有効であったものと推察される。これは質問4(2年次での参加)の問いに対して、65%の学生が「高い評価」であったことから裏付けられる。また、3(教員の説明)の評価が高いことから、授業初回のオリエンテーションで授業の目的と意義を説明していることも有効であったと考えられる。質問5(興味関心)は、「高い評価」が80%を占め、きわめて良好な評価結果であったが、学習開始後も興味・関心を持続させることができた背景には、質問11(チューターとのコミュニケーション)・12(メンバーとのコミュニケーション)や自由記述の「メンバーとの協力」に示されたセミナーメンバーやチューターとの良好な信頼関係の構築があったものと推察された。

(2) 「学習態度」群

質問4(2年次での参加)の「高い評価」群と「低い評価」群の評定平均値を表5に示す。

4(2年次での参加)は、「高い評価」が65%を占め、多くの学生が2年次での参加が3年次での実際の活動に役立っていると評価した。しかし、15%の学生は「低い評価」であった。「低い評価」群は、質問18(新しい技術、考え方)、14(委員会)、16(委員会への関与)、20(満足度)の評定平均値が「高い評価」群に比べ有意に低く($p < 0.05$)、2(目的理解)、3(教員の説明)、12(メンバーとのコミュニケーション)、17(活動内容の整理)の評点も有意ではないものの低い傾向を示したことから2年次での参加の効果に否定的な学生は、学習や委員会活動への意欲が乏しく、学習の満足感が低い傾向が認められた。この結果から、チューターは、2年次生への対応が3年次での学習に大きく影響することに配慮した授業運営を心掛けるとともに、2年次生を受け入れる3年次生への適切な支援が必要であることが考えられる。

質問6(準備への積極的関与)、9(当日の積極的関与)、19(学習態度)の評価をみると、80%以上の学生が「高い評価」であった。これに加えて自由記述には「楽しかった

表5. 質問項目別評定平均値及び質問3, 4, 13の「高い評価」群と「低い評価」群の評定平均値比較

分類	質問 番号	質問3(教員の説明)						質問4(2年次での参加)		質問13(2年生とのコミュニケーション)	
		全体 (n=46)		高い評価群 (n=35)		低い評価群 (n=5)		高い評価群 (n=30)	低い評価群 (n=7)	高い評価群 (n=20)	低い評価群 (n=9)
		平均値 ± 標準偏差	平均値 ± 標準偏差	平均値 ± 標準偏差	平均値 ± 標準偏差	平均値 ± 標準偏差	平均値 ± 標準偏差	平均値 ± 標準偏差	平均値 ± 標準偏差	平均値 ± 標準偏差	
学習意欲・ 関心	1	4.0 ± 0.97	4.0 ± 0.92	3.6 ± 1.14	4.1 ± 0.96	3.7 ± 1.11	4.1 ± 0.91	3.6 ± 1.13			
	2	3.9 ± 0.97	4.1 ± 0.82	3.4 ± 1.14	4.0 ± 1.00	3.3 ± 1.11	4.1 ± 0.79	3.2 ± 0.97	※		
	5	4.3 ± 1.00	4.5 ± 0.66	3.2 ± 1.30	4.2 ± 1.01	4.1 ± 1.46	4.7 ± 0.67	3.2 ± 1.30	※		
学習態度	4	3.8 ± 1.21	3.9 ± 1.02	3.6 ± 1.67	4.5 ± 0.51	1.6 ± 0.53	4.2 ± 0.93	3.3 ± 1.41			
	6	4.3 ± 0.85	4.5 ± 0.66	3.6 ± 1.34	4.4 ± 0.81	3.9 ± 1.21	4.6 ± 0.60	3.7 ± 1.22			
	9	4.4 ± 0.81	4.5 ± 0.74	4.4 ± 0.89	4.4 ± 0.68	4.3 ± 1.11	4.6 ± 0.60	4.2 ± 1.09			
	17	4.1 ± 0.84	4.2 ± 0.80	4.2 ± 0.84	4.2 ± 0.75	3.6 ± 0.98	4.3 ± 0.72	3.9 ± 0.93			
	18	4.2 ± 0.81	4.4 ± 0.73	3.8 ± 0.84	4.4 ± 0.67	3.6 ± 1.13	4.5 ± 0.69	3.9 ± 1.05	※		
チューターの 役割	19	4.2 ± 0.84	4.3 ± 0.80	3.8 ± 0.84	4.3 ± 0.74	3.7 ± 1.38	4.5 ± 0.60	3.8 ± 0.97	※		
	3	4.0 ± 0.98	4.5 ± 0.51	2.0 ± 0	4.1 ± 0.97	3.4 ± 0.98	4.5 ± 0.61	3.1 ± 1.17	※		
	10	4.1 ± 0.96	4.4 ± 0.69	2.4 ± 0.55	4.2 ± 0.96	3.7 ± 0.95	4.6 ± 0.69	3.3 ± 1.00	※		
コミュニ ケーション	11	4.3 ± 0.86	4.5 ± 0.56	3.0 ± 1.00	4.3 ± 0.96	4.0 ± 0.82	4.7 ± 0.59	3.6 ± 1.13	※		
	12	4.5 ± 0.72	4.6 ± 0.56	4.0 ± 1.00	4.7 ± 0.55	3.7 ± 1.11	4.5 ± 0.51	4.0 ± 1.12	※		
時間	13	3.3 ± 0.95	3.5 ± 0.82	1.8 ± 0.84	3.4 ± 1.03	2.7 ± 0.76	4.2 ± 0.37	1.8 ± 0.44	※		
	7	3.0 ± 1.18	3.2 ± 1.06	1.4 ± 0.55	2.9 ± 1.17	3.0 ± 1.29	3.2 ± 0.95	2.3 ± 1.12	※		
	8	3.7 ± 1.01	3.8 ± 0.99	3.0 ± 1.00	3.9 ± 0.99	3.3 ± 1.11	4.0 ± 0.97	3.2 ± 0.97	※		
委員会	14	3.8 ± 0.88	3.9 ± 0.85	3.8 ± 1.10	4.1 ± 0.79	2.8 ± 0.41	4.0 ± 0.94	3.6 ± 0.88	※		
	15	3.7 ± 1.15	3.6 ± 1.10	4.0 ± 1.41	3.9 ± 1.13	3.2 ± 1.47	3.8 ± 1.12	3.2 ± 1.20	※		
	16	3.6 ± 1.00	3.7 ± 0.83	3.4 ± 1.52	3.9 ± 0.86	2.5 ± 1.38	3.8 ± 0.83	3.3 ± 1.12	※		
満足度	20	4.2 ± 0.94	4.3 ± 0.84	3.4 ± 1.14	4.3 ± 0.92	3.4 ± 1.13	4.5 ± 0.83	3.3 ± 0.87	※		
全体平均		4.0 ± 0.57	4.1 ± 0.45	3.3 ± 0.51	4.1 ± 0.52	3.4 ± 0.71	4.3 ± 0.39	3.4 ± 0.64	※		

※, $p < 0.05$

た「積極的に取り組めた」などという記述が多数見られたことから、自主的に、積極的に楽しく学習できたことがわかる。しかし、ここには学ぶことへの厳しさ、困難さは感じられない。自主的な学習態度は大学生に不可欠であり、この授業で自ら進んで課題を発見し、解決する過程を体験することは有意義であるが、ともすれば自分達の能力の範囲で学習し、満足しているのではないかという問題点も浮上する。チューターには、主体性を尊重しつつも、能力を引き上げるための計画的な教育上の工夫や厳しい指導も求められているのだろう。

(3) 「チューターの役割」群

質問3（教員の説明）、10（指導助言）についてはいずれも「高い評価」が70%以上を占め、評価は良好であった。授業の説明は、初回のオリエンテーションで行うが、(1)「学習意欲・関心」群と同様に2年次での体験がベースにあるので説明が理解しやすく、その後のチューターとの関わりの中で十分に理解を深め、信頼関係を築いたと思われる。また、1年次から栄養セミナーなどで教員と親しく接しているため、多くの学生がチューターとも比較的短期間に打ち解けることができるものと思われる。一方、3（教員の説明）では、11%が「低い評価」であった。3の「高い評価」群と、「低い評価」群の評定平均値を比較すると（表5）、「低い評価」群は、7（準備期間の長さ）、10（指導助言）、11（チューターとのコミュニケーション）、13（2年生とのコミュニケーション）で評点平均値が「高い評価」群に比べ有意に低く（ $p < 0.05$ ）、全体の満足度も低かった。しかし、1（期待感）、2（目的理解）、4（2年次での参加）については、若干値が低いものの、「高い評価」のグループとの差は小さかった。このことは、目的をある程度理解し、期待感を持って臨んだものの、チューターとの意思疎通に問題が生じた学生がいることを示唆しており、チューターの個別対応の重要性が示された。

(4) 「コミュニケーション」群

質問11（チューターとのコミュニケーション）、12（メンバーとのコミュニケーション）は「高い評価」が80%以上ときわめて良好であった。しかし、13（2年生とのコミュニケーション）は、「高い評価」が44%と低く、「低い評価」は20%と比較的高かった。この結果は、半数以上の学生が、普段接している人とのコミュニケーション

は円滑であるが、知らない人と接するのは苦手というコミュニケーション力の未熟さを表している。藤縄らは⁸⁾、勤務する大学の看護学生の約半数が、臨地実習において対象者とのコミュニケーションに支障を来していることを明らかにしている。このようにコミュニケーション力が未熟な学生の存在は、本学科独自の問題ではないものの、将来人と接することが職業上不可欠な本学科学生にとっては、看過できない問題と言えよう。チューターは、3年次生に対して、企画運営の主体であり年長者であることの自覚を促し、2年次生とどのように接するかについての具体的なアドバイスを与えることが必要であろう。また、コミュニケーション能力の醸成は一朝一夕に行えるものではなく、学科の課題として継続的な取り組みの必要性が示された。

次に、13（2年生とのコミュニケーション）について、「高い評価」群と「低い評価」群を比較した結果を表5に示す。

「低い評価」群は、2（目的理解）、3（教員の説明）、5（興味関心）、7（準備期間の長さ）、10（指導助言）、11（チューターとのコミュニケーション）、19（学習態度）、20（満足度）の評定平均値が「高い評価」群に比べ有意に低かった（ $p < 0.05$ ）。中でも教員との関係を示す3、10、11の項目が総じて低い点は看過できない問題である。この結果は、コミュニケーション能力の低い学生は、自分から積極的にチューターに関われない分、チューターからの働きかけを期待するが、このような学生は、チューターとの会話が成立しにくく、十分な指導助言が得られていないことを伺わせる。

一つのテーマを企画運営するには、セミナーを牽引するリーダーとそれを補佐する積極的な人材が重要となり、チューターはそれらの活発に活動する学生との関わりを深めがちとなる。チューターには、意識してコミュニケーション能力の低い学生を信頼し粘り強く接する努力が求められるだろう。

(5) 「時間」群

質問7（準備期間の長さ）は、「高い評価」が37%、「低い評価」が34%と全項目中最も低い評価であった。公開講座までの期間は、夏休みを挟むものの約6ヵ月間あり短いとは言えない。しかし、自由記述に「時間配分があまりよくなかった」「もう少し早い時期から取り組めば

よかった」などの意見があるように、学生にとって最終目標を見定めた時間配分は難しく、また、決められた期間内に目標を達成するために努力することの重要性が認識できていない学生が多数存在することが示された。この授業の特徴は、学生の自主性を重んじ、チューターはセミナー生の主体的な取り組みを支援するという立場をとることである。チューターによる反省会では、学生の自主性を重んじるあまり、方向性や時間配分の問題を見過ぎすきらいがあることが報告された。チューターには、常に全体像を把握し、全体のレベルを高めること、長期的展望に立った軌道修正や遅れの指摘などの助言指導を適宜行う教育的配慮が求められる。

(6) 「委員会」群

概要でも述べたとおり、公開講座実施に向けて各セミナー代表による委員会を構成して運営に当たっている。この点については、委員になった学生の評価は質問14・15・16のいずれもが「高い評価」が60%前後を占め、比較的良い評価であった。各人が所属するセミナーの活動だけでなく、委員会の一員として活動することが、達成感や満足度を一層高める効果があったのではないかと考える。

ま と め

本学科独自の少人数教育(栄養セミナーⅢ)について、この授業の成果と問題点を検証するために、参加学生に対しアンケートを実施し、次の結果を得た。

- ① 総じて授業評価は良好であった。
- ② 学生の自主性、主体性を尊重する学習形態、「公開講座」という具体的な目標があること、2年次での参加体験があること、1年次からの栄養セミナーで教員と親しく接していることなどは、この授業に対する興味、関心を持続させ、意欲的、積極的に学習に取り組む上で有効であった。
- ③ 2年次での参加は、3年次での学習意欲の持続に有効であるが、学年間のコミュニケーションは、必ずしも円滑ではない。コミュニケーション能力の向上にはチューターの適切な助言やリードとともに、学科の課題として継続的な取り組みの必要性が示された。
- ④ 長期間にわたる学習計画の立案と実施は、学生には

容易でなく、チューターの長期的展望に立った適切な助言の必要性が示された。

参 考 文 献

- 1) (社)日本栄養士会, (社)全国栄養士養成施設協会 編:「臨地・校外実習の実際—改正栄養士法の施行にあたって—2002年版」, 社団法人日本栄養士会 (2002) pp. 2
- 2) (社)日本栄養士会, (社)全国栄養士養成施設協会 編:「臨地・校外実習の実際—改正栄養士法の施行にあたって—2002年版」, 社団法人日本栄養士会 (2002) pp. 2
- 3) 文部科学省中央教育審議会の「わが国の高等教育の将来像」の答申(平成17年1月)
- 4) 徳本弘子, 渋谷美香, 國澤尚子, 佐藤雄二, 三浦宣彦: テュートリアル教育における学生の学習の意味に関する研究—年度および3年目の学生の自由記述から見た学生の学習体験とその意味—. 埼玉県立大学紀要 (2002) 4, pp171-179.
- 5) 高橋一栄:「連携教育の実践」—基礎ゼミIIの実践—. 新潟医療福祉学会誌 (2006) 6 (1), pp146-153.
- 6) 中国学園大学:平成21年度学生便覧・授業概要. pp212.
- 7) 中国学園大学:平成14年度学生便覧・授業概要. pp168.
- 8) 藤縄理, 久保田章仁, 水野智子, 谷合義旦, 久保田富夫, 朝日雅也, 井上和久, 磯崎弘司, 植松光俊, 田口孝行, 西原賢, 丸岡弘, 原和彦, 高柳清美, 溝呂木忠, 江原皓吉, 細田多穂: 学生の専門職アイデンティティとコミュニケーション能力の分析. 埼玉県立大学紀要 (2004) 6, pp31-38.